

成果報告書

実施機関名（筑波大学附属大塚特別支援学校）

1. 事業の概要

筑波大学附属大塚特別支援学校（以下「本校」とする）は、知的障害を主とする幼児児童生徒を対象に、幼稚部から高等部までの学齢に応じた幅広い教育を行うとともに、筑波大学の附属機関として多様な実践的研究に取り組んでいる。また、センター的機能を担う支援部は長年に渡って園や学校のニーズに応じてコンサルテーション等の多様な役割を果たしてきた。

本事業は平成 29 年度に引き続き 2 年目の実施である。昨年度は幼稚部・小学部・中学部・高等部の 4 部で、教育的ニーズに応じた多様な教育実践を行った。その結果、支援機器の活用を通して他者との関係性を深めたり、将来の目標をより具体的に考えたりする手立てとなったことが示唆された。一方で、より多くの実践を蓄積すること、また実践に応じた分析・評価の在り方を深めていくことが課題であると考えられた。

そこで今年度の事業では、昨年度の実践を引き継ぎながら、多様なニーズに応じた機器の有用性を検証していくこととした。

(1) 活用評価シート

昨年度と同様の手順にすることで、実施する教員の負担を軽減するように配慮した。具体的には、昨年度作成した活用評価シート（図 1）のフォーマットを引継ぎ、教育的ニーズとそれに対する支援機器の選定及び活用を図るようにした。



図 1. 活用評価シート

(2) 各部での実践

幼稚部から高等部に加えて、今年度は支援部も実践した。昨年度の実践をベースにしたことで取り組みやすくなり、今年度はより多くの実践事例を検討することにつながった。

(3) 成果の発信

本事業の成果の発信として、昨年度の実践は日本特殊教育学会第 56 回大会（H30. 9. 22-9. 24）のポスター発表を通して広く発信した。また、今年度の実践については、平成 31 年 2 月本校開催の第 54 回知的障害児教育研究協議会においてポスターを掲示（写真 1）し、また A4 サイズに印刷したポスターを自由に持ち帰ることができるようにした。なお、当日は各実践の資料を 100 枚程度配布することにつながった。



写真 1. 知的障害児研究協議会の様子

## 2. 事業の成果

### (1) 活用評価シート

「活用評価シート」(図1)は昨年度の同事業で作成したシートを引き続き活用することとした。そこで考えられたのは次の2点である。

#### ①早い段階からねらいを明確にした実践ができたこと

事業開始の早い時期から、担当教員が教育的ニーズと支援機器の活用を整理して指導・支援することにつながった。また、より具体的に進めることができたので、教員間でも連携しながら活用を図ることができた。

#### ②教員の負担感の軽減につながったこと

幼児児童生徒の教育的ニーズや指導のねらい等を整理して書類に反映することの負担感は大きい。昨年度の取り組みでは、普段の実践を関連付けながらシートに反映できるように、作成者の負担感も考慮して活用評価シートを作成した。そして、今年度も同じ書式を活用することで、作成者も見通しをもって取り組むことにつながったと思われる。

### (2) 支援機器の活用 ～ 幼稚部・小学部・中学部・高等部の実践から

本校ではこれまでも幼児児童生徒の実態や授業内容等に応じて、支援機器の活用を行ってきた。さらに昨年度から継続している本事業の取り組みも併せることで、より多くの実践をまとめることができた。各実践については、活用評価シート、活用実践事例、ポスターでそれぞれまとめているので参照いただきたい。

### (3) 新たな活用の在り方 ～ 支援部の実践から

今年度は、新たに支援部も本実践に取り組んでいる。支援部はコーディネーターとして学級担任はせず、ニーズに応じた様々なコンサルテーションを行っている。その一つとして、クラス担任へのフィードバックの際に、支援機器を活用した振り返りシートを作成し、その有用性を検討した。直接的な指導・支援ではなく、間接的にニーズのある子どもをサポートする取り組みとして、支援機器の新たな活用が示唆された。

## 3. 今後の課題と対応

昨年度の実践の課題として、実践を分析・評価することで、支援機器の有用性をデータとして客観的に示すことが考えられた。そこで、本年度の実践では、昨年度の課題を踏まえて実践に応じて様々な分析・評価方法で客観的なデータを示すことができた(図2)。今後も分析・評価方法等に関する課題にアプローチしていく必要がある。

本校に在籍する幼児児童生徒の保護者も支援機器に関する理解やニーズも大きいと思われる。そこで次年度も継続的な取り組みが可能であれば、保護者向けの支援機器の研修会の開催、また保護者と学校が連携した支援機器の活用の在り方についても検討を行いたいと考える。

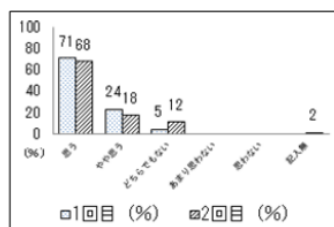


図2. 「振り返りシート」の評価結果  
(支援部の実践より)

問い合わせ先

- |          |                            |
|----------|----------------------------|
| ①組織名     | 筑波大学東京キャンパス事務部             |
| ②担当課室    | 企画推進課大学連携・外部資金担当           |
| ③電話番号    | 03-3942-6811               |
| ④FAX番号   | 03-3942-6820               |
| ⑤メールアドレス | fk.kyoren@un.tsukuba.ac.jp |